

登録コード	TSH31500	開講年度	2026				
授業科目	モデル駆動ソフトウェア開発特別実験Ⅱ					担当教員	小形 真平
英文授業名	Model-Driven Software Development Laboratory 2					副担当	
単位数	4	講義期間	不定期	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	情報数理・融合システム分野2年生
講義室				授業形態	実験	備考	
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	【授業で得られる「学位授与の方針」要素】					⇔	【授業の達成目標】
	2 6 TSカリ, 2 5 TSカリ, 2 4 TSカリ						
	【専攻】環境調和社会, 知識基盤社会を多様に支える工学分野の高度な専門知識と実践的技術力					⇔	モデル駆動ソフトウェア開発分野ひいてはソフトウェア工学分野における問題分析・解法設計・解法評価に基礎知識と実践力を身につけられる。
(2)授業の概要	ソフトウェア開発・保守・進化におけるソフトウェア工学、特に基礎的なモデリング技術に関する最新のトピックスについて、その実装を通して、各手法の実際的能力、問題点を理解することを目的とする。そのための技術調査を行い、受講者が選択した題材（技術・手法）を計算機上に実装し、その特長、現実の性能等を理解する。 集中講義形式にて実施し、前期集中70時間、後期集中50時間の合計120時間の演習を実施する。演習では、当該分野の文献調査やそのプレゼンテーション、討論、輪講を通して、その数理的基礎を理解する。						
(3)授業計画	各回集中10時間（1コマ2時間×1日5コマ）で実施する。課題については、授業当日に課し、締め切りを次回授業日とすることを原則とする。 前期 第1回：ガイダンス、基礎演習および解説 第2回：ソフトウェア工学、特にモデル駆動ソフトウェア開発に関する文献調査演習（指導型実践演習） 第3回：モデリング技術によるソフトウェア開発・保守・進化に関する文献調査演習（指導型実践演習） 第4回：グループ討論（モデリング技術によるソフトウェア開発）（指導型実践演習） 第5回：グループ討論（モデリング技術によるソフトウェア保守）（指導型実践演習） 第6回：グループ討論（モデリング技術によるソフトウェア進化）（指導型実践演習） 第7回：グループ討論（モデリング技術全般）（指導型実践演習） 後期 第8回：ソフトウェア工学、特にモデル駆動ソフトウェア開発に関するプレゼンテーション演習（指導型実践演習） 第9回：モデリング技術によるソフトウェア開発・保守・進化に関するプレゼンテーション演習（指導型実践演習） 第10回：ソフトウェア工学、特にモデル駆動ソフトウェア開発に関する英語基礎学術論文輪講および解説（指導型実践演習） 第11回：モデリング技術によるソフトウェア開発・保守・進化に関する英語基礎学術論文輪講および解説（指導型実践演習） 第12回：最終プレゼンテーション・討論（指導型実践演習）						
(4)成績評価の方法	受講者毎のプロダクトおよび実装進捗状況のプレゼンテーション内容（技術・手法に対する理解度、現実の問題へ適用した場合の性能の評価や問題点の把握等）によって評価し、単位の認定を行う。						
(5)成績評価の基準	(i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握・実装・評価できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」とする。(i) から (v) の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」とする。3項目までできていれば「合格水準にある」とする。						
(6)事前事後学習の内容	提供する教材を用いて予習と復習を実施すること。						
(7)履修上の注意	学部授業「ソフトウェア工学」の内容を理解していることが必要となる。						
(8)質問,相談への対応	研究室にて適宜対応する。						
(9)その他							
【教科書】	指定しない						
【参考書】	指定しない						